



○語り合う会に

九月十八日(日)午前、「わがまちへの思い・提案を語り合う会」を笠松中央公民館で開催。町長はじめ、岐阜女子大生、まちづくりにかかわる方々、道徳

や交流が大切だと指摘いただいた。

○町内の取り組みから

まず、「まちの駅」を代表し間宮寿和氏からは、開設されている四十三駅が地域づくりの拠点となる模索が始まっている紹介をいただいた。十一月と十二月に、駅をめぐるウォークが計画されている。

○わが町への熱き思い

最後に意見交流を行った。中高生はじめみんなが町を盛り上げ、提案を出し合う町になりつつある。今後、笠松にある人間資産をどう町の振興につなげるかが課題。具体的な形でみんなが取り組める工夫が必要。町への愛着を育むことが大切だ。など多くの意見をいただいた。女子大生の皆さんにも参加者の「わがまち笠松」にかける並々ならぬ思いが伝わった。

のまち関係者など三十名ほどが参加。昨年までは岐阜女子大学からの提案をもとに話し合ってきたが、今年、まちづくりに取り組む町内の皆さんの提案もしていただき「わがまち」への熱

次いで、NPO法人「笠松を語り継ぐ会」代表の高橋恒美氏は、自分の町を知ることが町を誇りに思い、町に愛着を持つことにつながる」と強調された。「ディスプレイ笠松」を合言葉に、杉山邸の保存、鮎鮎街

き思いを共に語り合った。
○岐阜女子大学から

女子大生六名からは、昨年



道などの
取り組み
について
紹介した

度提案の「オレンジ色のように心温かく、活力ある姿」(オレンジ日和)を創り出すには、笠松ブランド地産品の開発が欠かせないとして「一本ねぎラーメン」と「流しそうめん」の提案をいただいた。さらに、町にとって、木曾川を活かしたイベント

だった。この日、提案予定であったNPO法人「元氣そがわ」は、環境楽園からのEポート川下り体験実施のため、事務局が代わって資料をもとに報告。木曾川と笠松競馬を合言葉に、湊町浪漫はじめ婚活イベントまでさまざまな活動に精力



提案をする 岐阜女子大学の学生さん